

令和7年度 第2回湖南省立図書館図書館協議会 会議録

- 開催日時 令和7年10月24日（金） 午後7時00分～8時45分
 ■開催場所 湖南省立甲西図書館 2階 集会室
 ■出席者 図書館協議会委員10人
 事務局4人
 ■傍聴人 なし

1. 開 会

[会長あいさつ]

2. 報 告

- 1) 令和7年度 湖南省立図書館事業実績報告 上半期 について
- 2) 第4次湖南省子ども読書活動推進計画素案原案について
- 3) 甲西図書館リニューアル構想策定経過報告について
- 4) その他

議長	それでは報告の1番目。令和7年度湖南省立図書館事業実績報告上半期について、事務局からよろしくお願いします。
事務局	（資料1に基づき、令和7年度上半期湖南省立図書館事業実績について説明。）
議長	ありがとうございました。ご質問等ございますか。訂正版をいただいたのですが、何が間違っていたんですか。
事務局	来館者数カウントに積算漏れがありましたので訂正しております。
議長	カウントは、入って出て1ですか。
事務局	そうです。ただ簡易なセンサーなので2人並んで入ってこられても1人と認識したり背の低い子どもさんは認識しなかったりします。
議長	1回外に出て入ってくる人がいたら多くカウントされることになりますね。ただ、これまでなかった数字がとれるようになって、1年たてば傾向が見えてきて非常に重要な数値になると思います。
委員	来館者センサーは石部図書館には設置しないのですか。
事務局	設置する予定はないです。
議長	数字を見ていると、ここ1年は貸出冊数等の減少が止まってきています。いろいろな事業もしていただくようになって図書館に足を運ぶかたが増えていて、リピーターのかたもしっかり利用していただいているのかと感じます。さらに広げる施策が必要ですね。蔵書冊数は4,500冊ほど増えていますが、除籍冊数はどうですか。
事務局	現在除籍候補本を選定しているところで、12,000冊ほどありますが、除籍手続きが完了しておらず、数字としてあがっておりません。

議長	書庫もいっぱいなので除籍はする必要がありますね。ただ、まだ使える本もたくさんあるので有効活用という意味で、日本語で書いてある本を待っている海外の子どもたちに送ってあげられるとよいと個人的には思っています。費用もかかるので難しいところですが。では、2つ目、「第4次湖南省子ども読書活動推進計画素案原案について」ご説明の方よろしく願いいたします。
事務局	(資料2に基づき、策定委員会と策定経緯、第3次計画から変更した点、パブリックコメントスケジュール概要等について説明) 図書館協議会の皆様にはパブリックコメントに先立ち、11月6日までにご意見をいただきたいと考えております。
議長	第3次計画の資料は本日配布でしたが、第4次計画素案と一緒に事前配布いただいていたら、この場で意見が出しやすかったのでは。
事務局	申し訳ございません。策定委員会委員長は教育部長が務めており、図書館協議会委員をしていただいている図書館部会長や、事務局である私共も一緒に議論をしてきました。第3次計画期間中の分析としては、小中学校の児童生徒はよく学校図書館を利用して、学校図書館の貸出冊数は右肩上がりに伸びており、学校の先生方も学校司書と一緒に図書を活用するということをしっかりとしておられます。ただ、家庭での読書量が国や県平均に届かないというところで、どのようにして読書を習慣化していくかが第4次計画での課題かと感じているところです。
議長	5ページの「第3次計画で設定した指標からみた現状」の表ですね。
事務局	(それぞれの指標の数値を確認していく) 3つ目の「小中学生における5月の読書調査における不読者の割合」は0%を維持しています。これは全国的にも珍しいといえると思っています。
議長	全小学校、全中学校ですよ。すごいですね。
委員	これは基本的には、朝読書実施率100%の成果ですか。
事務局	朝読書とは限りませんが、少なくとも5月には全員が漫画やコミック、教科書以外で1冊以上の本を読み通したという結果にはなっています。学校の努力もあると思われます。
委員	どんなふうにカウントしているんですか。
委員	以前は学校経由での調査で教師が関わっていましたが、今はWEB回答ですので子どもが直接回答していますので自己申告です。朝読書では自分で読むこともありますが、学校司書やボランティアのかたが読み聞かせをしてくださるので、本に親しむ機会は多いです。
事務局	読んでもらって楽しかったら、自分から手にとるということもあります。

	ますよね。
委員	私が勤めている学校では、教室前の廊下に授業に関係する本やブックトークをした本などを学校司書のかたがブックトラックに乗せておいてくださるので、読む本に困る子はあまりいないです。
議長	子どもの不読率0%は市として誇れることなので、広報「こなん」に載せたりして市民に知らせたいですね。大人のほうが読んでいないかもしれない。子どもをよいお手本にして、大人も図書館に行ってもっと本を読みましょとPRしてもいいのでは。
事務局	不読率は0%ですが、資料の7ページの「平日の1日の平均読書時間」では数字が芳しくありません。学校では頑張って読むけれど、家に帰ると読む子は読むけれど読まない子は全く読まない、ので習慣化が課題だと委員会では感じました。
委員	6ページで、1ヶ月の読書量は、湖南省は滋賀県と全国に比べるとかなり低くなってるんですね。例えば小学生で、全国平均13.8冊のところ湖南省は5.2冊でほぼ3分の1。だから、その辺をどう問題意識として捉えるかなんですね。
事務局	量的時間的に少ないことは課題かと認識しています。
議長	学校教育の中ではしっかりやってるけど、家庭に帰ったら、誰も何も言わないから読む人は読むけど読まない人は読まない。
事務局	可能性はありますね。学校で頑張ってくれてるってということもありますし、保育園幼稚園こども園に通っている子が以前比べて格段に多くなっていますので、園での取組っていうのもどんどん大きな意味を持ってくるのではないかなと思っています。 (指標4～6を確認) 6番目の指標が図書館のもので、「児童図書 の市立図書館での児童1人当たりの貸出冊数」は一時と比べると伸びてはいますが、伸び悩んでいます。この数値も県平均より低いので図書館としても努力が必要です。成果指標の目標は達成できていますが、指標以外で若干課題がある数値も見受けられるので、いろんな施策を打っていく必要があると考えています。 (「子どもの読書活動を取り巻く環境の変化」について資料に基づき説明)
議長	ありがとうございます。皆さんから質問がありましたらどうぞ。
委員	11ページ38行目に「誰もが読書に親しめる取組を進める必要があります。」とありますが、具体的どういう方法があるのでしょうか。
事務局	はい。例えば障がいや特性のある子どもたちが読める本をアクセシブル図書といっています(例示)が、徐々に冊数を増やしています。

	また、外国にルーツを持つ子どもたちについては、母国語で読める絵本などを徐々に増やしています。以前はスペイン語ポルトガル語の本を多く揃えようとしていましたが、最近は様々な国のかたがおられるので、ベトナム語の絵本なども揃えるようにしています。冊数が少ないことと、それを必要としている子どもにきちんと届けられているかというのが今の図書館の課題かと思っています。どうすれば子どもたちに届くのか、こういう本があればいいといった声をいただくことも大事だと思っておりますので、第4次期間中には関係者の協議の場を設けていくことを一つの目標にしたいと思って記載をさせていただいているところです。
議長	はい、ありがとうございます。以前、大型絵本や大活字本などを集めて並べてもらいました。置いてあるだけではわからないのですが、そういう工夫があることを私も初めて知りました。必要な人に届いているかというのは大きな課題ですね。その人たちがここに来なければわからない。広めるためには、1人でも多くの人にそういった本があることを知ってもらうことが必要ですね。あとは外国人の方も今湖南市は4,000人を超えました。人口の8%、ほぼ10人に1人が外国人という時代がやってきていますが、外国語図書が10分の1あるかというところではないですね。子ども向けの本も増やさないといけませんね。私達も外国人が求めている本があるのかというのは、言葉が通じないのでわかりづらい。湖南市でもベトナム人の職員はおられないし、国際協会もスタッフがなくて他市から来ていただいている状況です。もう1200人を超えているにも関わらず対応ができていないというのはちょっと出遅れ気味かなというふうに思っています。第4次の中でそういったことを訴えていただけるのであれば、実践していけるのかなというふうに思います。 私からその下の段で、デジタル庁が設置されて…とありますが、学校図書館にも電子図書というのはあるんですか。
事務局	学校図書館にはありませんが、市立図書館にはあります。
事務局	子どもの本については読み放題パックというのを春から入れさせていただきまして、同時に何人でも読めるのでクラスのみんなで同じ本を同時に読むということが可能です。
委員	タブレットでね。それも学校の授業の中で使われているんですか。
事務局	使っていただけるのですが、段階的に進めております。まず図書館のカードとパスワードが必要です。そして図書館のホームページにアクセスして電子図書館のページに入ってもらって、借りてもらう

	というという流れになります。皆さんもカードとパスワードを持っていただいていたら読んでいただけます。電子図書は例えば文字を大きくする機能や読み上げ機能があったりします。字を追うのはしんどいお子さんでも、耳で聞けるものがあったりします。
議長	民間ではとても流行っていて、使っている人がいらっしゃるんですけど、図書館では貸出用の電子図書は全体としては非常に少ないので、費用対効果が出ているのかよくわからないんですが、子どもたちにもこれを推進していくのか、本はちゃんと本として読ませるのがいいのか。
事務局	学校図書館では紙ベースの本を読んでくださっています。ただ、選択肢の一つとして皆が1人1台タブレットを持っているので、活用していただくことも考えていきたいというところです。読み上げ機能があったりスペイン語やポルトガル語、英語で読んでくれる本などもあるのでそういう活用はしていただけるかなと思います。
議長	電子図書は予算を使っているわりには、なかなか読んでいただけてない。ただ、本をタブレットで読むのと本で読むのは違うのかというところは議論も必要かとは思いますが。
事務局	違いはあるとは思いますが。それから図書館に提供される電子図書は商用ベースのものと違い基本的には紙の本の3倍ぐらいの価格です。ただ図書館に来られない子どもたちも借りられますし、図書館が閉まっているときでも借りられるというメリットはあります。
議長	ただ、タブレットは家に持ち帰らずに学校に置いてるんですよね。
事務局	持ち帰りOKが出るんですよ。
議長	それはW i - f i を飛ばさなくても、常に繋がってるんですか。
事務局	W i - f i が使えない家庭にはルーター貸出もしています。
議長	そこまでやっておられるのなら、実績も上がっているんですか。
委員	ただ、電子書籍については使い方など教師陣もまだ飲み込めておらず、研修などから始めていくところです。
議長	今入口に立ちましたぐらいの話なんですね。わかりました。
事務局	湖南市の場合は、ホームページで電子図書の検索と図書の検索が別の画面になっています。読みたい本を検索したら電子書籍も出てきたらそれを選ぶ人もいると思うのですが、全く違うところからアクセスしないといけないという状態ですので、その辺りもできれば改善をしていきたいと思っています。
議長	D X が進んでいるので追いつかないとね。この会でも勉強会をぜひお願いしたい。ということで、子ども読書活動推進計画は中身が濃

	いので、ぜひご一読いただき 3 次と 4 次を比べていただいて図書館へご意見ご質問していただいてもいいかと思います。決まったら 5 年間この計画に基づいて推進していくことになりますので、しっかりとご意見頂戴できればと思っております。
事務局	メールか F A X、来館していただいてもいいので、11 月 6 日までにご意見を頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。
議長	委員、どうぞ。
委員	11 ページに「図書館司書の正規職員が令和 3 年度 10 人から令和 6 年度 7 人になって、児童サービスを担当する職員数の減少が一因であると考えられます」という文章があるんですが、正規職員の司書の人の数が減ってることが子どもの読書の環境にとってあまりよろしくない。であれば、14 ページの「司書の配置と資質向上」というところをもう少し大々的に訴えられないかと思います。それから私は先日ここにもおられる委員のかたと一緒に岐阜市立図書館に行ったんですが、とてもいい図書館でした。大変広い図書館というのがあるのですが、子どもの本のところには子ども専門の司書の方がちゃんとおられて、そこで相談を受けたり、本を勧めたり、貸出も行われたりされていました。子ども専門、児童図書専門の司書の方がその場におられる図書館を見て、司書の方の存在というものは、第 4 次のところでもかなり大事だと訴えたいとは思いますが、私がこう言ったことで変わるのかどうかかわからないんですけれども。
議長	もちろんご意見なので反映してもらおうようにしたいですね。司書 10 人が 7 人になってるんですね。これは予算が減らされているからなのか、募集しても来ないからなのかどちらですか。
事務局	減っているのは退職補充がないからです。
議長	予算的な部分で補充しないってことです。
事務局	そうですね。現状で司書の募集はしていません。図書館運営に関して、今後どうしていくのかというところで、人事部局との話にはなるんですが、現状では司書の採用はしていないということです。
委員	岐阜市はもちろん規模は全然違うんですけども、考え方かなと。小さい規模でも司書の方っていうのが 3 名も少なくなってるままだっていうのはどうなのかなっていうふうに思います。
事務局	岐阜市立中央図書館（メディアコスモス）は 2 週間ぐらい前にテレビでも取り上げられていました。司書数は 70 人とおっしゃっていました。複合施設として生まれ変わって利用が伸びたと番組の中で

	は言われていました。
委員	もう一つあるんですけど、いいですか。
議長	どうぞ。
委員	17 ページの幼稚園保育園こども園の役割についてです。小学校中学校は指標があるのですが、幼稚園保育園こども園にはありません。ここに書いてあるように、0歳児は家庭にいる子どもが多いけれども、1歳児からは6～7割、3歳からは10割が園で過ごしているというのが現状です。0歳から6歳という時期は絵本、物語にとっても興味を示し言葉の吸収力が大きく成長する時期です。家庭での読書環境がいろいろで、子どもと絵本を楽しむ余裕のない親御さんも多くいらっしゃるかもしれません。そこで、0～6歳の子どもたちの多くが長い時間を過ごす各園での取組はとても重要なことだと思います。園のほうでも指標を考えていただき、本の入り口である絵本の楽しさや言葉の楽しさを子どもたちに伝えていただけたらと思います。また、園の先生方がゆとりをもって子どもたちに関われるよう「職員の資質向上」という項目が充実したものになることを期待します。それには職員数や配置の問題もあるでしょうし、また、絵本や読書などの研修についても考えていただき、湖南市の子どもたちが幼いときから豊かな読書体験ができるよう願っています。
議長	資質向上になると全てですね。子ども未来応援部を作っていたいでるので、役割分担の中で、その一つが本ということにはなると思うんですけど。先ほどおっしゃっていたように普段の生活のなかで親以上に長く見ていただいている先生方の資質が良ければ、当然保育の質が良くなるという想定にはなりますが、どこも人手不足で、まして安全安心をやっていこうと思うと、さらに質の向上をしていくというのは人件費的な部分も当然かかってくるので、全ての園がそこまでレベルを上げられるかっていうのはなかなか難しい。
委員	先日、絵本の研修ということでこども園に行かせて頂きました。私が紹介する本を司書の方が全部用意してくださって、その図書館の本を持って行ったんです。本を並べておいたら、先生たちはこの本がこの季節にはいいのかって手に取ってくださって、そこでやっぱり図書館の本、図書館と先生たちの繋がりもできるし、そういうことをもっと季節ごとにしていただくとか、そういうことをすると図書館とかの繋がりもできるんじゃないかなと思います。学校には司書がおられるんですが園のほうは先生たちしかおられないので、

	もう少し今回の計画の中で考えていただけたらと思います。
議長	園は小学校以上にたくさんあるので、その季節に読ませたいとかこのときに読んでもらいたいっていうのも、計画的にやらないとね。
事務局	おっしゃる通りで、第4次で園の指標はないので何とかっていうことを今もまだなお保育園担当にも言っているところでありまして、実際は、園で本と触れ合う機会があるんです。あるからそれをどういう指標にするのか悩んでおられるのかなとは思いますが、こういったご意見もありますので、園には指標について再度出させていただくようにお話を進めていきたいなと思いますし、園で過ごす中で本のふれあいというのは本当に大事だと思うので、そこは進めていきたいというふうには考えております。
議長	保育園幼稚園は公立と私立と、今いくつあるんですか。
事務局	公立4園と私立が10園以上ありますね。
議長	公立園はカバーできて、あと10いくつは大変ですよ。
委員	17ページのところで、園での図書館等との連携の中に、具体的取組が本のセット貸出の活用、本の貸し出し先になってますよね。他市町では基本的に幼稚園保育園については、図書館の支援というのは、やはり人的な支援、園の先生方に対して読み聞かせの講習などとか絵本の選び方、それから実際に絵本コーナーを作って、そこにどういうふうに本を並べたらいいのかといったことを具体的に図書館から行って指導している事例がたくさんあります。その結果として繋がりができていて、園の絵本コーナーが非常に充実して子どもたちがよく使うようになったという実例がありますね。これもさっきおっしゃったように、それだけの人的余裕がなければできないので、具体的にやっていくときには人なんですよね。だからきちんと施策をやっていこうとすればそれに必要な人的な裏打ちをしないと、計画を作っても結果としてそれが成果を出さないってことになるんでね。どこに課題があるのかっていうのはそこら辺をきちんと押さえた上で展開していかないと難しいかなと思っています。
議長	小中学校には最初の頃にちゃんと指導に行っていたから、綺麗に本が並んでるっていう話だったんですけど、幼稚園保育園にはまだ手が回ってないっていうことですよ。もちろん予算化もしていただかないと、委員がおっしゃったように、絵に描いた餅になってしまう可能性もあります。職員さんの数増やしていただければいいんですけど、もう予算がなくて配置できないような状況になってきてるんで、その辺はボランティアさん含めてそういった市

	民さんにご協力いただけるよう、もう少し工夫してやっていくっていうのも一つの方法なんですけど、まずそういったことをこの中にもある程度入れていただいて、目標値を作っていかないと。部長おっしゃったような形で、ぜひしっかりとご協議していただいて、皆さんに言えるようお願いしたいと思います。時間の兼ね合いもありますので、次の項目の甲西図書館リニューアル構想策定経過報告について事務局からご報告よろしくをお願いいたします。
事務局	第1回で概略を説明しましたが、その後の経過について説明します。6月20日、22日に市がタウンミーティング「つくろうまちの憩い文化ゾーン」を開催し延べ49人の参加をいただきました。図書館協議会委員のご参加もありました。9月4日に市職員でアフタータウンミーティングを実施し、皆様のご意見を受けとめ、どのようにしていくか議論させていただきました。また、業者選定につきましては、8月13日に決定しました。その後、市民アンケートを無作為抽出2,000人に9月3日に郵送し9月26日までに回答いただいております。郵送以外に図書館、ホームページ、LINE等々でも回答可能としており、結果回答件数は795件でした。アンケートを送付した方からは524件の回答があり答率は25%を超えました。現在集計中で結果は後日公表予定ですが、自由回答でも様々なご意見をいただいております。駐車場が狭いことと、トイレの改修要望が圧倒的に多く、駐車場に関してはこのエリアで検討、トイレ改修は来年度予算が取れましたら進めていきたいと考えております。その他、カフェなど飲食スペース、学習スペースの充実、市民交流の場にしてほしいといった要望も多かったように思います。複合施設になっている図書館も多くありますので、そういったことも要因かと感じます。今、部としてリニューアルコンセプトをまとめているところです。今後ですが、12月に市民ワークショップ開催予定です。こういった取組結果を踏まえして3月にリニューアルの基本構想を完成させていくというところです。以上です。
議長	では何かご意見ご質問ありますか。なければそれぞれに今日また少しずつお話をいただく中でリニューアルの件について要望などあればお話をいただいたらというふうに思います。

3. その他

- ・意見交換
- ・連絡事項

議長	では座席順に、よろしいですか。
委員	はい。先ほど園のお話がありましたが、近くの小学校では学童の方が多いです。学校が終わって家に親御さんが帰ってこられるまでの間、外で遊んだりピアノをひいたりしている。そこで、図書という内容を活かしたらどうかと思っています。実際に学童に図書が何冊あるとかいうのは見ていないのですが、家庭の読書時間が少ないんであればそういう方向にすると、そちらの方で補えるんじゃないかなと思いました。以上です。
議長	はい、ありがとうございます。それも検討していただくことで。
事務局	そうですね。図書館リサイクル本を活用していただいている学童保育所もあります。児童書リサイクル本は、まず優先して学校へ、そのあと地域に連絡、そのあと一般市民のかたへ譲渡していきます。
議長	本を増やしていただくのはそういった手法もあるということですのでよろしくお願いします。次どうそ。
委員	甲西図書館リニューアル構想で一番気になるのは、予算がどれだけおりるのかです。市民の声が上がっても、予算はこれだけだから、だったらちょっと残念だと思います。駐車場がない、市民の交流の場がないという中で、一番の問題は予算だと思います。以上です。
議長	はい、ありがとうございます。予算はもう概略は決まっていますか。
事務局	予算編成は始まっていますが、交渉やヒアリングはこれからです。
議長	要望を聞いていただくのもいいですが、これだけ予算があればトイレ改修できます、これだけもらえれば、ここまでできますというふうに言っていただけると意見もしやすい。私は、本当は建て替えて欲しい。建替計画があったのに、いつの間にかリニューアルになっている。ハザードマップでは2メートルの水が来たら図書館は浸かるんですよ。浸かるのに図書館があるのはおかしいと言っているのですが、予算がないからこのままいくという話になっている。少なくとも2階に上げとかなないとね。
委員	万一3メートルの水が来たらどうするのという声もあります。
議長	せめて庁舎は高い方にもっていかないと感じます。
事務局	庁舎のところは浸水想定が50センチです。だから50センチ以上クリアすれば、今の浸水想定では大丈夫だという前提で進んでおります。
委員	ただ、水量は1時間に50ミリとか、100ミリとかということはここだけじゃなくってあるね。鈴鹿の方で降ると、くるから、そういう

	ことがやっぱり想定されてないといけないんじゃないですか。
事務局	雨が降るとか災害が起こると、想定外の雨が降ったとかっていうのをよくニュースなどでもありますが、想定を超える被害というのはどこでも起こっています。どこまですれば正解かっていうのは正直、建築のところでもわからないところではあると思いますが、今考えられる範囲としては考えていかないといけないと思います。
委員	なぜ一番上の消防署のところだったのを下に下ろすんですか。
事務局	決まっただけじゃなくて、候補が3か所あっただけなんですよ。
委員	想定をしておけば一番いいところに何で建てないんですか。
事務局	そこに建てる場合は、今ある建物を潰してからでないと建てられない。建てるお金の面など、いろいろな要素を組み合わせた中で、そこも選ばれた。最終決定しているわけではないです。
議長	図書館は100歩譲っても仕方がないにしても、作り直して想定外ですというのは通じないですよ。
事務局	それは調べてクリアできるような高さにします。高さは、元々30年確率か50年確率で見て、今100年から200年確率まで想定をしながら検討してますので。昔に比べれば、異常気象が増えているのはわかってるいるのですが。
委員	でも、上げといたら想定外でも仕方なかったですみませんが、そこ下にして、ちょっと上げました、そこに水きました、それで想定外でしたって言われるんですか。今なら選べるんですよ。
事務局	今の市役所があるところにはいろんな建物があります。社会福祉センター、商工会、消防署もありますし、そこを全体として考えないといけないということです。
事務局	基礎なしで立つわけではなく、想定した中で高さが決まってくると思います。
事務局	必要な高さまで上げるという方法であったりとか水を止めるという方法であったり、いろいろいろいろありますので。
議長	今日は図書館の話なので、このあたりで。委員がおっしゃるように、予算を私達にも言っていただいたら、もうちょっとやってよという話にもなるんですが。少なくともトイレ改修は当たり前の話ですし、本来の図書館の役割を果たすことはもちろんですが、居場所作りといった部分も想定していただいて。予算を私達に言っていただいたら私達もそれなりにこれ増やして、これは我慢するから、これを優先してみたいなことが意見させてもらえるのかなと思います。どうですかって言われたら、全部綺麗にしてくださいって言うしかないのです。

委員	予算がいくらあったら浸水対策できるのかというのが、私の意見です。万が一野洲川浸水が3 mになったら、図書館の1階全部駄目になって、本も駄目になるということが最悪考えられるので、そこをもうちょっと何とか行政はどう考えていただけるのかなと。以上です。
議長	はい、ありがとうございます。消防署の跡地に本庁舎がいかないのであれば図書館をそこに建てたらどうでしょう。本は水かぶったら乾かしても使い物にならないのでね。では次の委員。
委員	以前に別のところで障がい者サービスのことをやってて、実際に障がい者の方に話を聞いて、サービスのことを考えていかないといけないと話しました。職員が障がい者の方に実際に会っていろんな話できて、本当に勉強になったって言ったんですね。タウンミーティングなどで聞く意見は一方的に聞いているだけの話になってしまうので、できればそこで出た意見などでめばしいものがあれば私は図書館の人がその人と対面で対応しながら、本当にどういったことを望んでいるのかっていうことをもう少し深掘りしていくっていったことも必要じゃないかと思うんです。広く意見を聞くということだけではなく、きちんと対話して、そういった意見が出てくる背景、どんな思いがあるのかといったことを深く受けとめるっていう努力、一つ一つの意見に対してそれを掘り下げて受け止めていくための努力ってのはどこかでやっていかないと、リニューアルのための方向性っていうのはちょっとうわついたことになりかねないという危惧はしてます。ですので、できたら図書館職員が手分けしてでもそうした市民の声をじかに、直接対話の中で汲み取っていく努力、こういったこともやってほしいなという気がしています。
議長	はい、ありがとうございます。タウンミーティング等していただいているんですが、帳面消しにならないように、今おっしゃっていただいたように深掘りしていただいて、本当に求められることはしっかりとやっていくというのは、少ない人数の中ですが、やるべきことはお願いをしたいなという委員のご意見なので、よろしくお願いします。次の委員どうぞ。
委員	「子ども読書活動推進計画」を読ませていただいて本当に小学校中学校の中でずいぶんと先生たちや学校司書さんが努力をされて、子どもたちに本を読む方向に持っていったら、それは本当にすごいなと思う反面、でも市立図書館の貸出冊数とかが減っていった中で、司書さんの数が減ったのが一番私は痛いなと思ってます。やっぱり市役所の職員さんが来られてきっちりと対応はしていただけてますけれ

	ども、やはり図書館に来たら司書さんにいろんな相談をして、どういうふうに調べたらいいのかとか、どんな本を見たらっていうふうにいってもらえる。そういう意味では司書さんの役割というのが大きい。これだけ司書さんが少なくなると、司書さんが本来しなくてもよい雑用をしないといけないという感じが横から見ててあります。ですので、学校の先生たちや学校司書さんたちの努力には拍手をさせていただいて、市立図書館の司書さんの補充や、図書館に司書がいる意味を認識していただけていただくことが、子どもたち大人たちが本を読み考える力をつけることに繋がるのかなと読みながら思いました。以上です。
議長	リニューアルも大切ですが、「もう募集しません」というお話があったのですが司書の数もトータルの予算の中で見ていただくようにしていかないと、結果的にいいものを作ったものの、誰も進める人がいないということになる。並行してやっていただくお話なので。12人が7人になって、10人、それ以上に戻せるような策も一緒に考えていただきたいなと思います。では、次の委員。
委員	学校の中では時間や場の保障、確保ができて子どもたちが読む機会が増えて、湖南市は他市と比べると学校司書さんが入ってくださっている割合が高い。そこの充実があって、子どもたちの本や本に親しむ機会が増えていて、ありがたいと思っています。研修会とかに行くと、羨ましいと言われます。ただ、学校で一生懸命やっているんですが、家に帰ったらスマホとかゲームとかそういうものに負けてしまう。家に帰っても読書とまらないところは、どうしたらいいのか悩んでいるところです。親さんも活字に触れないことが増えているという印象はあります。子どもの活動を学校から発信することで保護者のかたにも響いたらいいなと思いますが、なかなか難しいと思っています。 リニューアルに向けて市民のかたの声をたくさん拾っていただいているという話がありましたが、予算も人的なところも限られていると思うのですが、限られた中でもできることで魅力あることをぜひ実現していただけるとありがたいと思います。 それから、話が別になるかも知れませんが、先日ここで「図書館を使った調べる学習コンクール」という、子どもたちが自分のやりたいこと、疑問に思ったことを、本を使って調べて、まとめて、出してくれた作品の審査会がありました。コンクールやりますというだけじゃなくて、図書館で子どもたち呼んで、こんなふうに調べたらいいよという相談会もされているという話を聞いて、とてもいいな

	と思いました。その結果、毎年やる子は毎年それに応募しているので、ハード面のリニューアルもあると思うのですが、ソフト面のどんな企画するかというところもとても大事になってくると思うので、その辺りも検討していただけるとありがたいと思います。
議長	ありがとうございます。はい、委員どうぞ。
委員	具体的にリニューアルした子どもの部屋ですが、外からも見えていい感じなんですけど、ちょっと奥なので、そこに行くように足形つけるとか案を出したのですが。そこで、小さい子向けのイベントみたいなものを私達のようなボランティアのおはなし会をするとか、今はなくなってしまったんですが、以前は親子プレイステーションで木のおもちゃを使って図書館の部屋でも広場みたいなのをしていたんですね。そういうイベントをすることで、ここにその部屋があるっていうことがわかるので、そういうことを企画されたらいいかなと思います。もう一つは、学校司書さんも充実してきていると思うのですが、学校司書さんと図書館との繋がりがどうなっているのか私達には見えてなくて、学校図書室だけじゃなくて図書館にはこんなにたくさん本があるので、図書館の司書と学校司書とのやり取りのなかで、子どもが図書館に向くようなことがあったらいいのにはと思います。先ほど先生が、子どもが家に帰って読まないっておっしゃっていましたが、面白い本に出会ったら読みたくなると思うんです。帰ってもうちちょっとだから読みたいって、そういう本を学校司書の方が紹介してくださったり、図書館の司書の方がそこで一緒に勉強会し合ったりとかして、子どもたちが目を輝かせてスマホやゲームより面白い本があることを知ってほしいなと思います。うちの息子は小学校のときは全然本を読まなかったですけど、中学校の朝読のときに「ホビットの冒険」に出会って授業中も隠れて読むぐらいすごく夢中になった本があるんですね。だから本当に楽しい本に出会ったら、子どもたち信じていいと思うんです。どんどん読みたくなるという経験をする、本に対して変わるんじゃないかと思うので、学校司書の方も学習、授業の役に立つこととかはすごく一生懸命されてると思うんですけど、本来その本の楽しさに結びつくようなことを、学校司書の人、図書館の司書の人で何かやっていただけたらなと思います。
議長	はい、ありがとうございます。今は図書館と学校図書館の人の交流会とか、そういう何か繋がりはないですか。
事務局	図書館の司書で学校教育課と兼務している職員が2人いて、2ヶ月

	に1回程度学校司書定例会に出席をさせていただいています。あるいは日常的に本の取り寄せの相談などがありますね。
議長	交流がないわけじゃないということですけど、それをもう少し発展させるといったことご要望されているので、その場をうまく活用させていただいて、お願いをしたいと思います。では次の委員、どうぞ。
委員	子どもたちが家庭で、本に触れ合う機会が少ないという話が先ほどからあって、図書館の存在自身も子どもたちにとって、そう身近ではなさそうな気がしています。映画会の参加者数も少ないですし。リニューアルを考えてくださるんだったら、公園と図書館が結構別個な感じで、公園で遊んでいるたくさんの子どもたちが図書館に来るという流れはなさそうな感じがします。あともう一つは、大人たちにとってもこの公園広場って健康取組がいっぱいできそうですが、その大人たちも健康のために図書館に寄って頭の健康も図ろうという存在になってないような気がします。もし複合的な施設になるとしたら、そういう流れが作れるような、目に見えてこのまま図書館に流れたら楽しいことが待ってそうだな、その楽しいことの中に映画会があったら、子どもだけでも行ってみようかなとか、そんな感じのハード面のリニューアルを期待したいなと思います。
議長	まさに私もそれを思っています。図書館をリニューアルするのですが、庁舎と別物じゃなく総合的にやる流れの中で、図書館の役割や回遊性を高めていくこと、ここだけじゃなくて総合的に。駐車場も足りないんです、だから共用の駐車場でここから流れてくるとかっていうふうなことを作ってもらわないとね。総合的にしていただきたいんですが、図書館だけ3月に構想策定してしまうんですよね。
事務局	そうではあるのですが、東庁舎と甲西文化ホール、森北公園、図書館のこのエリアで考える委員会が立ち上がっています。
事務局	横のつながりがありますし、夏にありました市長のタウンミーティングも、その3課、森北公園とか文化ホール、図書館を合わせてこのゾーンを「憩いの文化ゾーン」という位置づけの中でどんなふうになればいいのかなど様々な意見を頂戴しています。文化ホールは中の改修にこれから入っていきますし。先ほど出ました駐車場の問題であるとかは、今の森北公園の駐車場をうまく利用して、今は段差がありますのでその辺りもってという意見も出ていました。
議長	ぜひその辺の全体構想を図書館協議会委員にも伝えていただいて、だから図書館はこうしようとかね。カフェが欲しいんですけど、なかなか採算が合わないので、総合的な中にあればというこ

	とにもなってきますしね。
事務局	スペース的な問題もありますしね。
委員	ちなみに石部文化ホールロビーで月 1 回金曜日と土曜日にカフェをやっておられるところで、図書館の本を並べたら皆さんが興味を持って手にとってくださったりしています。だから、やっぱり協力し合えると、みんなも引き上げられるところがあると思います。
議長	またお邪魔をさせていただきます。では次の委員どうぞ。
委員	リニューアル構想のアンケートにも答えたんですが、私も公園の子たちをどう図書館に引き込むかを考えたいです。道があることで隔たりありそうなので、繋ぐために公園に移動図書館を置く日があってもいいのかなと思います。そこに本を借りに行けたり、読み聞かせしてみたり、本に引き込むために。移動図書館は子どもたちにすごく人気があって、学校の図書館があっても移動図書館来るとすごく行くんですね。別物なんですよ。移動図書館があればそっちに子どもたちが行くんじゃないかなっていうのと、あとやっぱり本を借りたら読むスペース、ちょっと憩いの場としても開かれた、散歩している人も休めたり公園の利用の仕方がいろいろできるし、そういうのを置くと図書館になるんですよ、そこがね。図書館の中でリニューアルしようと思うと、なかなか限られてくるけど、そうやったら図書館を広くできるんじゃないかなと思いました。あと、皆さんもおっしゃっていたように、学校図書館、学校では子どもが読んでいる、学校司書さんの配置時間がだいぶ増えたことで、その後すごく貸出冊数が増えている。明らか司書さんがいる時間が長いと子どもたちが本に触れる機会が増えて、そういう授業をすることが増えてってということだと思うんですね。それを考えると司書数が減ってしまった市立図書館で、貸出冊数が減っていくのは当たり前というか、そうだろうなって感じですね。今回リニューアルの実現には、やっぱり司書さんの数を増やすっていうのは不可欠で、増やせばできるというわけではないと思うんですけども増えなくてそんなにガラッとリニューアルできるのかなって思いました。
議長	ありがとうございます。回り回って司書さんの数ということで。A I 司書とかはないんですかね。当たり前のことはA I が知ってて答えてくれるので手伝ってもらって複雑に聞きたいときは司書っていうようなことでね。人を増やすのは言うのは簡単なんですけど、予算的にはなかなか大変なので、この会議もA I が文章にまでまとめてくれる、そういう時代になってきているので、A I にもできる

	こととできないこががありますが、うまく取り入れていただいたら。またそんなこともちょっとA Iで勉強していただいたらいいかなと思います。では、次の委員どうぞ。
委員	機械にできることは機械に任せたらいいと思いますけれども、社会教育で図書館は重要と言われているんです。そして、図書館の本と人を繋ぐためには人がやっぱり必要なんです。司書を採用しないと言われましたが、そのところを補充せずに、どのように社会教育、生涯学習を進めるのでしょうか。大変残念に思います。 「子ども読書活動推進計画」は今回レイアウトが変わって家庭などに呼びかける感じはちょっとアップしたかなと思います。ただ、家庭がその読書活動を推進するために図書館が要だと書いてあるのですが、14 ページのところ、表の中の一番下のところですね、左側には基本方針「家庭、地域、園・学校が連携・協力した取組」と書いてあるのに、その次の施策の方向のところに「家庭」がありません。そして「団体などの貸出サービスを行う」で終わってるのですね。家庭に呼びかけるための施策の具体的なものが見えてこないのが残念に思います。ここをどういうふうにしていくか、しっかり盛り込んでいただけたらと思います。私も考えた案を後ほどメールでお送りさせていただきます。よろしくお願いいたします。
議長	ありがとうございます。もちろん人は一番大切だと僕も、思っているんですけどもすぐに増えないということを考えました。また、そういった部分を何か助けていただけるような仕組み作りというふうなことで、友の会を立ち上げて図書館のサポートもしていこうよという動きがある。人として繋がっていくのであればそれも大きな一歩かなというふうに思っておりますので、非常に感謝申し上げます。皆さん方の活発なご意見を頂戴できましたので、これで終了して事務局にお返しします。
事務局	では事務局から連絡事項です。第3回の図書館協議会ですが、例年県立図書館での図書館協議会交流会に出席いただくこととしています。今年は12月6日土曜日の午後とのことです。詳しい内容は県立図書館から正式に連絡がありましたら、お知らせします。 また、第4回の開催時期ですが、例年2月末頃です。こちらも日程調整させていただきたいと思いますのでどうぞお願いいたします。

4. 閉 会

〔副会長あいさつ〕